

京都の伝統野菜を活用した農作業体験の実施

事業実施主体:京都市

次世代を担う子ども達に対して、地域の農家の指導による、京都の伝統野菜である「聖護院だいこん」や「水稻」等の作付けから収穫までの農作業体験を行った。併せて、収穫した農作物の調理実習、試食体験及び農業に関する講話をとおして、子ども達が農作業の苦労や喜びを認識し、農業の果たす役割や食への理解を深め、併せて、京都の食文化を保護・継承していくことや地域の食材の魅力の再発見につながる取組となった。

京都府



【取組の内容】

- 京都の伝統野菜「聖護院だいこん」「辛味大根」の栽培体験
取組内容:播種、間引き、収穫作業、講話(活動回数9回)
対象児童:鷹峯小学校・仁和小学校3年生 延べ367人
指導団体:京都市農業協同組合大宮支部(4人)
京都市農業協同組合朱雀野支部(4人)

【地域の農業者による講話及び農作業体験指導】



○水稻の栽培体験

- 取組内容:田植え、稲刈り、脱穀作業、講話(活動回数5回)
対象児童:椋原小学校・神川小学校4・5年生 延べ453人
指導団体:椋原農協青年部 (5人)
久我土ん子クラブ (4人)

【取組の成果】

- 本取組を通じ、農作業に苦戦しつつも、自分たちが育てている野菜の成長を喜ぶ姿や、自ら育てたことで苦手な食材を食べられるようになった子どもの姿も見られ、飽食の時代に生きる現代の子ども達が、農業の果たす役割や食の大切さに理解を深め、日々の食生活を見直す良いきっかけを与えることができた。
- また、京都の伝統野菜である「聖護院だいこん」等の栽培体験の際には「スーパーで売っている野菜と違う」等の地域の食材に関する感想があり、京都の食文化の保護・継承や地域の食材の魅力の再発見につながる事ができた。

【事業の目標】

農林漁業体験者の増加

本年度体験者数(延べ人数) 820人

前年度体験者数(延べ人数) 893人

増加率 -8.2%(目標値 1.0%)

現状値 893人 → 取組実施後 820人(目標値902人)

- ※ 新型コロナウイルスの影響により、実施予定の小学校のキャンセルや農作物の試食会を実施出来なかったため、目標を下回る結果となったが、多くの子ども達が農作業体験をとおして、農業や食についての意識や理解が深まる取組となった。